

「国宝白水阿弥陀堂」

観光客

ランニングおじさん

自転車おじいさん

窓口のおばさん2人

僧侶

観光の夫婦

住職

駐車場に車をついた観光客。

車を停めて、200mほどの一本道を歩いて阿弥陀堂へ向かう。

橋をわたる。

時計を気にする。

目の前をランニングおじさんと、自転車おじいさんがキコキコと通り過ぎる。

阿弥陀堂をかこむルートは老人たちの周遊トレーニングコースになっている。

池がある。

写真を撮る。

曲がって、窓口に声をかける。

中に二人のおばさんがいて、さっさと帰り支度をしている。

観光客「あの、まだ大丈夫ですか？」

おばさん1「はい、四時で閉まりますけど」

愛想はいい。

観光客「あ、でも、まだ3時40、、、」

おばさん1「すぐ閉まりますけどいいですか？」

観光客「あ、はい」

おばさん2、おばさん1のすぐ横でお土産にシーツのような布をばさばさとかけていく。

おばさん1「600円になります。」

観光客お金を払う。

おばさん1「はい、ありがとうございます。こちらパンフレット。そこ橋渡ってもらって、お堂がありますから、お堂はもう閉まりますから、お堂から先に見てくださいね。」

観光客「お堂から」

おばさん2 「はい、もう閉まりますから4時で」

おばさん1 「先にお堂に行ってください」

観光客 「はい、わかりました」

観光客進んで橋を渡る。

しばし景色と遠くに見えるお堂の佇まいを眺める。

静けさ。

写真を一枚。

遠くのお堂の雨戸を僧侶が閉じはじめの見える。

観光客、歩みを速めてお堂に近寄る。

お堂。

僧侶は観光客に気づいているが気づかぬふり。そのまま雨戸を閉め続ける。

観光客は靴を脱いでお堂の階段を上がる。

声をかけずにはいられない近さになった。

観光客 「まだ良いですか？」

僧侶 「は？ 四時までですけど」

観光客 「えっと、まだ3時・・・」

僧侶 「はい？」

観光客 「あ、じゃあ」

僧侶、いまいましように閉め作業を中断して、中途半端に閉めかけた雨戸を元に戻す。

観光客、階段を上りきり、お堂の中に入る。

小さくて暗いが清潔。足元には観光客用にパンチカーペットが敷いてある。

観光客、しばしたったまま仏像たちの前でたたずむ。

観光客、正座をする。

僧侶、お堂の中に入ってくる。

僧侶、仏像の一番端に並んで、お堂の壁際で観光客の方に顔を向ける形で正座する。

講談でも始めるかのように自分の座布団を整える。

と、突然テープレコーダーのように僧侶が正面を向いたまま案内を始める。
ゆるぎない安定感。

僧侶「みなさま、本日はようこそ、この内郷の地、白水阿弥陀堂にお越しくございました。このお堂は今を去る約857年前、永暦元年3月、鎮守府將軍藤原清衡の娘、徳姫さま、現在の平泉の金色堂を作った方の娘がこの地にお嫁に参り、旦那さんの他界されたのちにその冥福を祈らんがため作ったお堂でございます。故郷平泉を懐かしく想い、その泉の字を中央から分け、白水と名付けました。この阿弥陀堂はご覧の通り東・西・南の三方を池に囲まれており、正面に当たる南から中ノ島を経由して御堂にいたる参拝道が設けられており、更に北・東・西は山で囲まれており、阿弥陀堂を中心としたこれらの空間は、数百年経った今でも正に平安時代末期の貴族の理想郷、浄土式庭園の様を成しつつあります。このお堂の内部は極彩色だったのですが、永い年月の末、このような状態になり、復元したのが手前、丸柱の間のガラスケース、これは上の部分のなげしを復元したものです。また、お堂の向かって右奥のガラスケースは仏様の上の天井の復元となります。小さなマス目に花の絵や文様が描かれまして、この花は宝相華といいましてこの世界には咲いていません。仏の世界に咲いている浄土の花を描いてお堂の中は飾られました。しかし、永い年月とともにこういった状態で残った阿弥陀堂です。以上でございます。」

僧侶、そのまま前を向いている。

観光客、手を合わせる。

観光客しばらく祈ったのち、財布を取り出し、10円玉を賽銭箱に入れる。

立ち上がり、出て行く。

僧侶「ご苦労様でございました」

観光客、階段をおりて靴を履く。

僧侶、また雨戸を閉めはじめる。

阿弥陀堂から離れ、しばしたたずむ。

風が吹く。山が見える。

写真を撮る。

前の大きな二つの池の周りを護岸に沿って歩きはじめる。

池の対岸を自転車おじいさんが通っていく。

橋を渡る。

切符売り場の前を通り過ぎる。

もう扉もカーテンも閉まっている。

観光に来た夫婦とすれ違う。

妻「まだやってる？」

夫「4時までだろ」

妻「間に合った？これは橋？あ、池がある、写真撮っていいの？」

観光客、歩き去る。

後ろのほうで

窓口のおばさん1「すいませーん四時までなんですー」

夫「え、なんで？」

窓口のおばさん1「15分前閉場なんですー」

夫「あそうなの？」

窓口のおばさん1「また来てくださーい」

観光客二つ目の橋をわたる。

向こうから住職が来る。

観光客「ありがとうございました」

住職「はいどうもねー」

観光客、来た道を戻らずに回り込み、ゆっくり阿弥陀堂の外周を回る。

後ろからランニングおじさんに追い抜かれる。

しばらくゆっくり歩く。

自転車おじいさんに追い越される。

おわり